

VI ヘリコプター運航者へ安全運航の呼びかけ



2010年2月21日

メーカー4社のCEO共同声明

近年ヘリコプターの事故が多発し、メディアの度重なる報道によって一般市民の関心が高まると共に、その安全性について否定的な認識が生じるに至りました。安全の問題は、ヘリコプター界が最重要視しているところですが、現下の状況は最悪といわざるを得ません。

安全は、ヘリコプターの用途や運航者によって大きな違いがあります。けれども、私どもメーカーは全ての事故について深い関心を抱いており、製品および運用マニュアルについても安全上の見地から改善を続けております。これらを利用していただく運航関係者の皆さまも、私どもの推奨する整備規定および運航規定に則ると共に、国際ヘリコプター安全チーム（IHST）が推奨する安全強化基準を実行するよう、ここに要請いたします。

IHSTは2006年初めの発足以来、北米、欧州、ブラジル、インド、アラブ湾岸の各国で数百のヘリコプター事故について原因を分析し、再発防止策を見出すべく努力してきました。分析の結果はIHSTのウェブサイト公表されております。問題の所在はヘリコプターの機種や運用の違いによって異なりますが、安全性の向上をはかるには大きく次の4つの領域に努力を集中すべきことが特定されました。

1.安全管理システム（SMS）

2.訓練

3.最新の機器およびシステムの利用

- ① 飛行データ監視（FDM）システム
- ② 異常モニターシステム（同システムが入手可能な場合）
- ③ 特定の飛行目的に応じた特殊装備品の使用（たとえば夜間暗視ゴーグル、対地衝突警報装置、悪天候に備える計器飛行装備など）

4.整備基準の厳守

上の SMS、訓練、および FDM に関する詳細は、IHST のホームページの中の“Safety Resources”の頁に掲載してあります。努力の焦点をどこに当てるべきかを確認するために、そしてあなたが次の事故を起こす当事者にならないためにもご利用ください。

<署名>

ジュゼッペ・オルシ (アグスタウェストランド社長)

ジョン・ギャルソン (ベル・ヘリコプター社長)

ルッツ・ベルトリング (ユーロコプター社長)

ジェフリー・ピノ (シコルスキー社長)



共同声明調印後の握手をするヘリコプター・メーカー4社——左から
アグスタウェストランド、シコルスキー、ユーロコプター、ベルの各社長

[HEM-Net 注]

上の文書は去る2月21日、ヒューストンで開催された国際ヘリコプター協会 (HAI) 総会で、ヘリコプターメーカー4社の社長によって発せられた共同声明である。国際ヘリコプター安全チーム (IHST) の主宰する安全問題討議ののち、4人そろって署名がなされた。この共同声明の末尾に記された IHST のホームページには、安全のためのツール・キットとして、

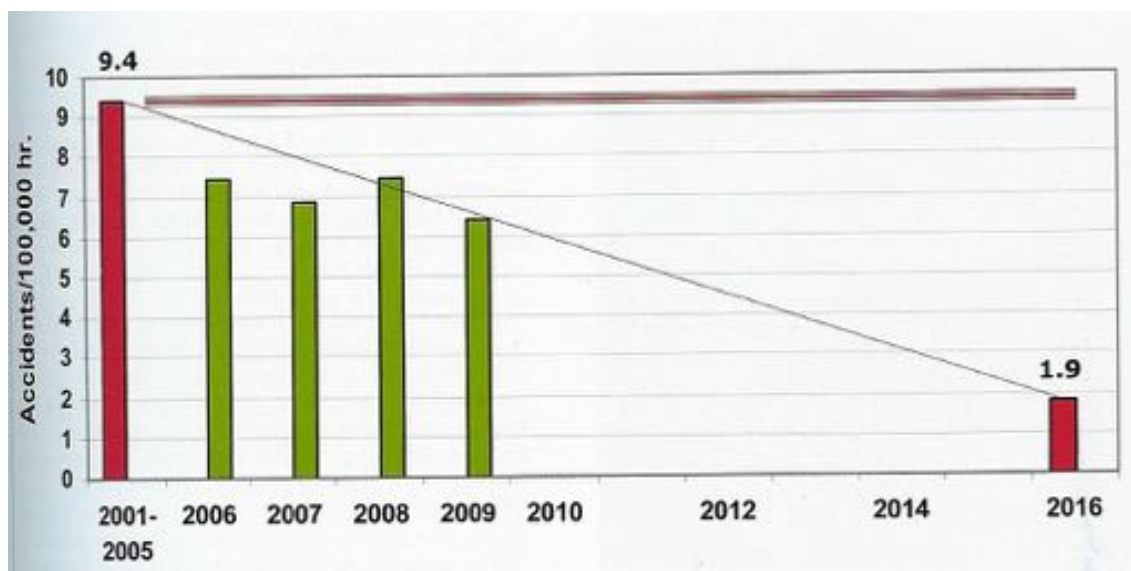
Safety Management System (108 頁)

Helicopter Training Toolkit (45 頁)

Helicopter Flight Data Monitoring Toolkit (22 頁)

などの参考資料が掲載されている。膨大な量なので、ここに要約することはできなかったが、ぜひ参考にさせていただきたい。

なお、IHST の掲げる安全目標は下図のとおり、2001～05 年のヘリコプター事故を基準として、2016 年までの 10 年間に救急機に限らず、全ヘリコプターの事故率を 8 割減とする。すなわち、2005 年当時の事故率が 10 万時間あたり 9.4 件だったが、これを 2016 年までに 1.9 件まで減らそうというもので、実際に 2006～09 年の事故率は目標通りに進んでいるという。



(要約：山野 豊)